

国語だより その4

相良中学校 国語部

あしびきの山鳥の尾のしだり尾の
長々し夜をひとりかも寝む



今日の一首は、「小倉百人一首」の三番、柿本
人麻呂の歌です。歌の内容は「山鳥の垂れ下がっ

た尾のように、長い長い夜を私は一人寝るのだろうか」というものです。
好きな人と一緒に夜を過ごせない寂しさを、「山鳥の尾」にたとえて詠
んでいます。なぜ山鳥なのかというと、当時は山鳥は夜になると夫婦が
谷を挟んで別々の山に帰ると言われていたからです。山鳥のオスの尾は、
長いものでは1mを超すそうです。作者は男性ですが、家から出られない
女性の立場に立って詠まれた歌です。

読書感想文課題図書レビュー③

『平和のバトン～広島の高中生たちが描いた8月6日の記憶～』

弓狩匡純／著 広島平和記念資料館／協力



広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが一年をかけて油絵
に描いて記録する、『次世代と描く原爆の絵』プロジェクト。その活
動の様子や生徒たちの証言、そして被爆体験を語った語り部たちの
思いをまとめたノンフィクション。原爆や戦争について考えさせら
れる本であると同時に、「表現する」ことの意義や心構えについても
学べる一冊だ。

全部で六章。そのうち五章がそれぞれの「原爆の絵」に関わった生徒と語り部の証言
をまとめたもの。どのエピソードも読んでいて心に迫るものがあるが、感想文ではこれ
らを全て紹介するのは避けた。また、紹介された体験談をそのまま提示して「原爆は
怖いと思いました」などと書いてもあまり意味がない。なぜ語り部たちはこのプロジェ
クトに参加したのか、生徒たちはどんな思いでこのプロジェクトに取り組んだのか、自
分にとって最も心動かされた話について、じっくり考えて、深く読み込んでいこう。

一読後まず思ったのは、絵を描くことが好きな人や楽器を演
奏することが好きな人など、表現し伝えることに魅力を感じて
いる人にこそ読んでもらいたいということ。そして、多くの人
にヒロシマを訪れてほしいということだ。「戦争の記憶」に今を
生きる我々はどう関わっていくのか考えてほしい。

